

講演要旨

地産地消の“地球学”的意味

東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

松井孝典

現代とは、人類史、文明史においてエポックメイキングな時代であるばかりでなく、地球史においてもそうである。何故か？地球システムの構成要素が変化したからである。我々は現在、地球システムの構成要素として、人間圏を作って生きている。宇宙から夜半球の地球を見たとき、大陸を縁取るように、明るく煌々と輝く光の海が見える。それが人間圏である。宇宙的視点からすれば、このような生き方を、文明と定義することができる。その結果として、地球システムにおける物やエネルギーの流れに乱れが生じ、我々はそれを今、地球環境問題として認識している。地球学とは、このような視点に基づいて、宇宙誌的時空スケールで文明の問題を研究する、新しい智の体系である。本講演では、その視点から地産地消の意味を考えてみたい。結論を述べれば、以下のようになる。人間圏を作って生きることで我々が今享受する豊かさは、結局地球システムにおける物質の流れを早くすることで得られたものである。現在人間圏によって駆動される物の移動速度は、それが無いとき地球システムによって駆動される速さの、約10万倍に達する。地球システムと調和的な人間圏を設計しようと思ったら、この速さを遅らさなければならない。地産地消とは、まさにそれを具体化する方策の一つなのである。